

誰が感染してもおかしくない今の状況の中で・・・

昨日の第70号で、感染の大幅な拡大を受けた福島市の対応について特集しましたが、今日は、新型コロナウイルス感染症への感染の恐怖や、感染や病状等の無知（コロナという病気のことをよく知らないこと）から生まれやすい差別や偏見について、一人一人が考えてみてほしいと思います。

それは、こんなチャットから始まったことでした。

ねえねえ、うちの学校からコロナが出たらしいよ

えっ、だれなの???

この前の登校日に来なかった人とか？

たしか、Aさんが来なかったよな

熱があるから、休むって言ってたよ

やっぱりそうだよ。Aさんの家の近くの人、何か知らない？

そう言えば、最近救急車が通ったような気がするけど...

やっぱりそうだよAさんだよ

本当!?

でも、Aさんだったら、他の人にうつっているかもしれないよね

まあ・・・
そうだね・・・

うわ、どうしようとなりの席だよー

最悪。。。Aさんのつくえにさわっちゃったし



オレ、こわくなってきた---

ねえ、やめよう！
こういうこと、よくないよ



私は、この書き込みを見て、Aさんのことが心配になってきました。本当に新型コロナウイルスに感染してしまったのだろうか。このチャットのことをAさんは、きっと知らない。この書き込みを知ったらどう思うだろう。

そんなことを考えていたら、夕食がおいしく感じられませんでした。

私は、夕食後に、一緒に洗い物をしていたお母さんに話しかけました。お母さんは、「Aさん、熱があって休んでいるんですよ。そんなうわさ話にまどわされてはいけないんじゃないの。でも、もし本当に感染しているとしたら、それは、Aさんにとって、とてもつらくて大変なことなんじゃないかな。」
そう言いながら、お母さんはいつものリズムでお皿を洗っていました。私は、すすいできれいになるお皿をじっと黙って見つめていました。



次の日、学校に行く途中、登校してきたAさんと目が合いました。

皆さんは、この話を読んでどんなことを考えたでしょうか。

- このチャットグループにあなたが入っていたら、どんな書き込みをしますか？
- 「私」が、夕食がおいしく感じられなかったのは、どんな理由があったからでしょう？
- あなたが「私」だったら、次の日、Aさんになんと言って話しかけるでしょう？
などなど ぜひ、ご家庭でこんな視点から話し合ってみてください。

相手を思いやる・相手の気持ちを思う・相手の立場に立って考える時には「想像力」が必要です。こんなことを言われたら・こんなチャットを見たら・こんな話を聞いたら、その人はどう感じるか・どんな気持ちになるかを、自分が行動する前に、行動したときに、行動した後に想像できるかどうか、一人一人の「想像力」が今、このコロナ禍の中で試されているように思います。

ちょっとホっこり

昨日16日の昼、このお便りをつくっている時、1年男子生徒1名が突然、校長室のドアをノックしました。「校長先生、今朝は雪はきをしていただき、ありがとうございました。」それを言うために、誰に言われたわけでもなく、自分の感謝の気持ちを伝えたいという思いだけで、わざわざ校長室に来てくれました。とても暖かい気持ちになりました。昨年度は雪がなく、一度も体育委員やボランティア除雪隊は出動できませんでした。でも、一昨年度までは、本校では雪が降ると体育委員や大勢のボランティア生徒が自主的に除雪をしてくれていた伝統があることを、その生徒にはお話ししました。なにより、感謝を伝えたいという気持ちと行動に移してくれた行動力がうれしいですね。ありがとう！